

## 黒又沢川日向沢山行報告書

- 【山 域】 越後三山  
【コース】 黒又沢川日向沢  
【日 時】 6月18日（土曜日） 前夜発  
【天 候】 晴れ  
【参加者】 CL：上茂 メンバー：平野(直)・平野(良)・花島(記録)  
【コストム】 十字峡 7:00～日向沢出合 7:50 ～ 二股 8:45～大滝 9:20～9:50～  
稜線 12:45～12:55 ～ 十字峡 14:10

### 【山行報告】

今年は雪が少ないので、越後の沢も”いけんじゃねえ”ってことで出発です。十字峡の仮眠場所に不安があり水無川沿いの公園で仮眠する。翌朝、十字峡へ移動するが、十字峡手前に何ヶ所かトイレ付駐車場があり、取り越し苦労でした。まあ、コンビニに寄れたのでヨシとするか。

十字峡に車をデポし、黒又沢沿いの草深い踏み跡を辿り河原に降り立ち、入渓準備し、遡行を開始する。渡渉を繰り返しながら遡行すると釣り師に遭遇する。しばらく待機後、OKサインが出て会釈して追い越す。日向沢出合は、え。ってなくらい水量が少なく、この先にこれほどのスラブ(下の写真)が控えているとは、思えません。



(日向沢出合)

10分ほどF1に到着。ここで、上茂さんが体調不良で離脱する。週の初めから風邪気味で、病院へ行ったが、回復とはいかずリタイヤです。



(F1上部から)

(円内は見送る上茂さん)

どうにもこうにも滑り易く、濡れた岩は信用ならない。ルートは水流から外れた草付きあたりに求めがちになる。本流の水はいまいち信用できず、かといって脇から注ぐ流れもなくジリジリ照らされるばかりで汗が止まらない。沢登りの享受がないのは辛い。



水枯れする事も度々で、沢靴でクライミングをやらされてる感が拭えない。



右の写真の滝（F2？）は、右岸を登るが、大股開きの一步のトラバースがいやらしくロープを出してもらおう。高巻きは、上に追いやられるだけで滝上には出られないので、沢通しにルート伸ばす。

F2?)

F1から一時間ほどで大滝到着。



(大滝)



(リードする平野直さん)



(落ち口へ)

右岸の草付き沿いに30mロープでカムと灌木でピッチを切る。濡れた岩は全く信用ができない。残置はいつさい確認出来なかった。3Pでようやく落ち口に出る。



ここから先は、ロープを出すような場所はないらしい。平坦部はなく、ひたすら滝とは言い難いような壁らしき場所をヌメリと闘いながら高度を上げていくと、雪渓がチラホラ現れる。慎重に潜ったり、厚そうな箇所を歩いていると、そのうち完全に谷を埋め尽くす光景が広がっていた。傾斜がそれ程でもないのに、沢靴を何度か蹴りこみながら足場を作り、先頭を交代しながら10分程で抜ける。



雪渓を抜けても暑さと沢靴クライム、時々ヌメリの洗礼を受ける。クライミングを避けて高巻くにしても草と頼りない灌木しかなく戻るのに苦労する。



(振り返っても現在地の特定は出来ず)

残地のハーケン、シュリングもなく、高巻きの跡もはっきりしない。

要所要所、高度計と地図で確認しながら遡行してつもりだが、ルートを外れてるんじゃないかと不安に襲われる。

右足のふくらはぎが攣りだし、時々立ち止まっては揉む。

水もとっくに消えているので、アプローチシューズに履き替える。

沢筋を離れ、より下山道に近い左岸の樹林帯に突っ込むが、一度は傾斜のきついヤブに阻まれ沢に戻される。この頃から、ふくらはぎに加え腿まで痛みだす。

行けそうな所が出てきたので、再度突っ込む。木登りを交え、ヤブの薄い所を右上すると、ひょっこり登山道に出る。標高は、1450m。日向山が1560mなので、遡行したルートに間違いはなかったようだ。

日向沢は初級ルートということになっているが、特に時間を食ったところもないのに、遡行時間はコースタイム通り。これが今の実力らしい。越後の沢は厳しい。

十字峡まで標高差1000mを一気に下山する。まもなく十字峡というところで、下から「そろそろ降りてくると思った。」と登ってきた上茂さんの出迎えを受ける。

少し体調は良くなった様子で、安心する。

「さくり温泉健康館」に立寄り、汗を流して帰葉する。

以上